

2021年11月12日

2022年3月期 第2四半期 決算説明補足資料

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

株式会社大泉製作所

- 1. 2022年3月期 第2四半期業績**
2. 2022年3月期 通期業績予想
3. 中期事業計画進捗

- 需要回復と電動化領域の伸長で期間累計売上*はピークを更新
- 操業度の改善等により期間損益良化

【売上】

- 自動車部品：車両販売増と電動化領域売上の拡大
- 空調・カスタム部品：グローバルの旺盛な需要を取り込み

【収益】

- 増収と操業度の改善により収益性が向上
- 増産や調達難等の課題対応を優先、投資コストの発生が計画比減少

【B/S】

- 下期の受注増を見据えた在庫の積み増しで棚卸資産が増加

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、旧会計基準による値で算定しております。

第2四半期累計 損益実績(過年度比)

OHIZUMI

単位:百万円

	2020年3月期 第2四半期		2021年3月期 第2四半期		2022年3月期 第2四半期			
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	2020/3期 2Q比	2021/3期 2Q比
売上高 (新会計基準)					5,885			
売上高 (旧会計基準)	5,874	100.0%	4,528	100.0%	6,443	100.0%	109.7%	142.3%
営業利益	320	5.5%	▲85	-1.9%	400	6.2%	124.7%	—
経常利益	277	4.7%	▲55	-1.2%	355	5.5%	127.9%	—
当期純利益	210	3.6%	▲73	-1.6%	247	3.8%	117.8%	—

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期第2四半期実績は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

* 2022年3月期第2四半期実績の売上高比は旧会計基準により算定した売上高に対する比率を記載しております。

* 2021年3月期以前の実績は、旧会計基準による値を記載しております。

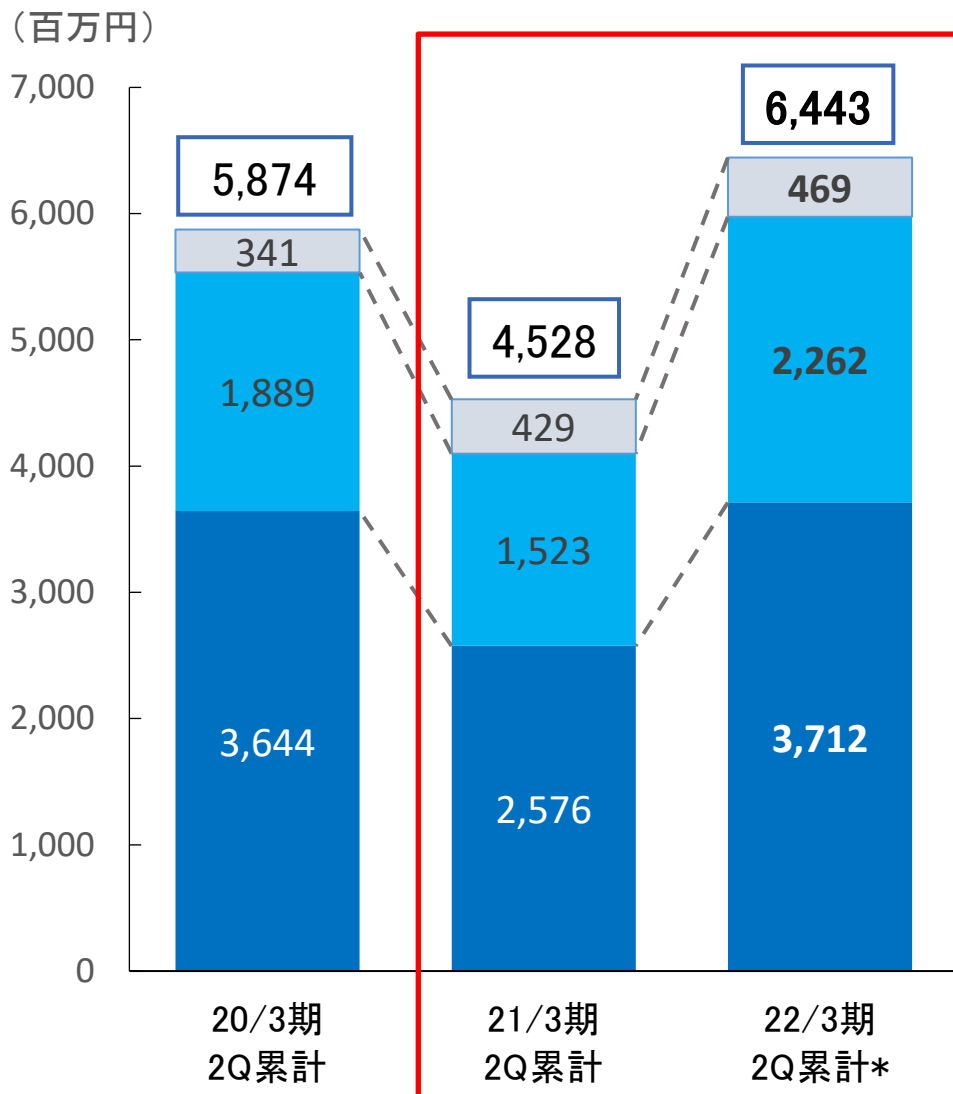
単位:百万円

	2022年3月期 第2四半期 (期初予想)		2022年3月期 第2四半期(実績)				
	予想	売上高比	1Q	2Q	2Q累計	売上高比	期初予想比
売上高 (新会計基準)	5,510	100.0%	3,102	2,783	5,885	100.0%	106.7%
営業利益	170	3.1%	256	143	400	6.8%	235.3%
経常利益	155	2.8%	233	121	355	6.0%	229.2%
当期純利益	120	2.2%	138	108	247	4.2%	206.3%

- ・ 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、上記の数値は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。

第2四半期累計 事業別売上高

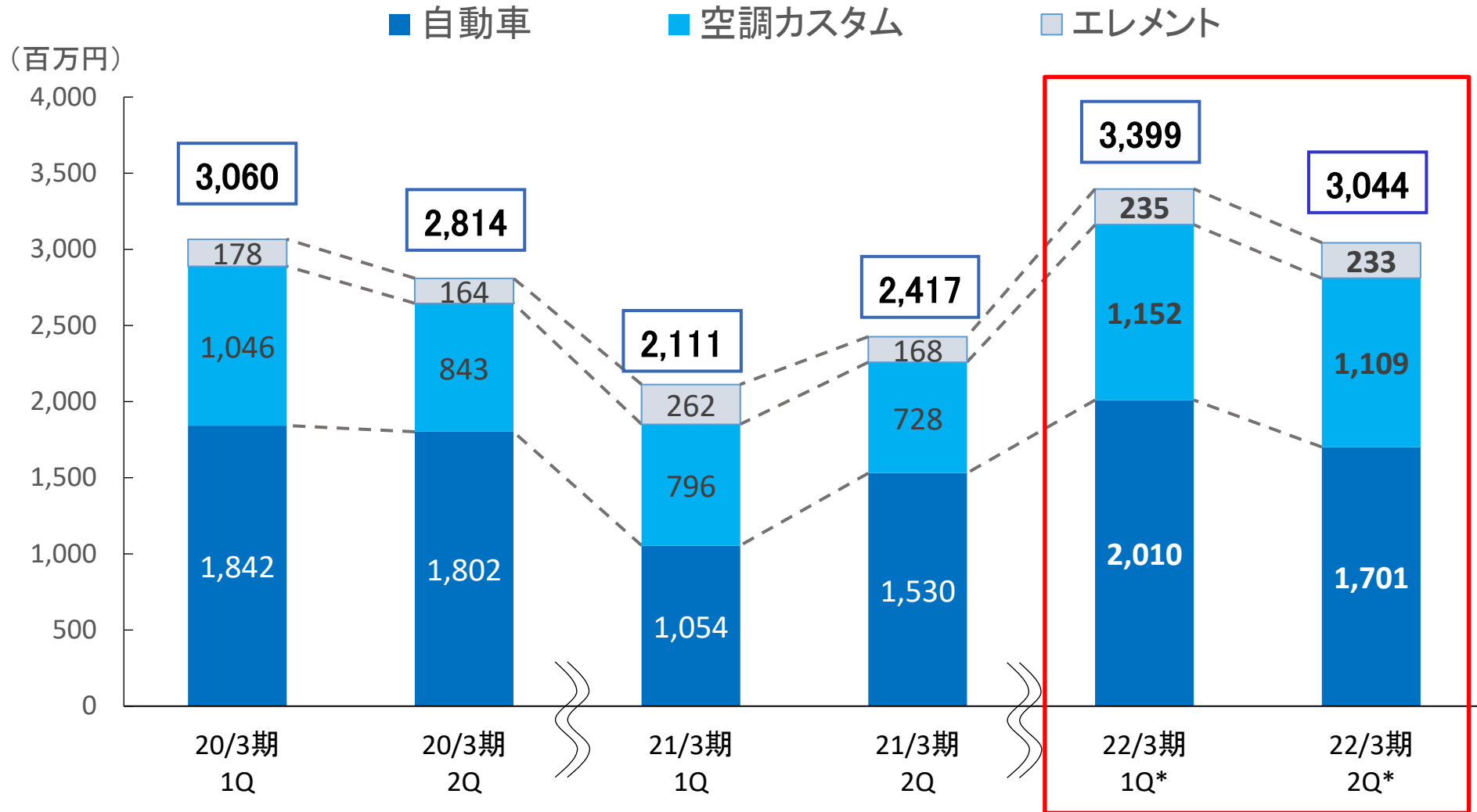
■ 自動車 ■ 空調カスタム ■ エlement



事業	前年同期比* (百万円)	増減率*	コメント
全体	+ 1,915	+ 42.3%	●第2四半期に車両生産減の影響を受けたが、期初からの旺盛な受注で全事業ともCOVID-19前の水準を超過
自動車	+ 1,135	+ 44.1%	●既存品は車両販売の伸びにより増加 ●電動化領域は倍増、投資の刈り取りが本格化
空調カスタム	+ 739	+ 48.6%	●空調用は各国経済の回復に加え、主要顧客内での当社シェア拡大で増加 ●各産業の回復により工作機用が好調
Element	+ 40	+ 9.5%	●既存品は自動車、家電、産機等の増加で回復 ●光通信用は市場在庫調整が継続

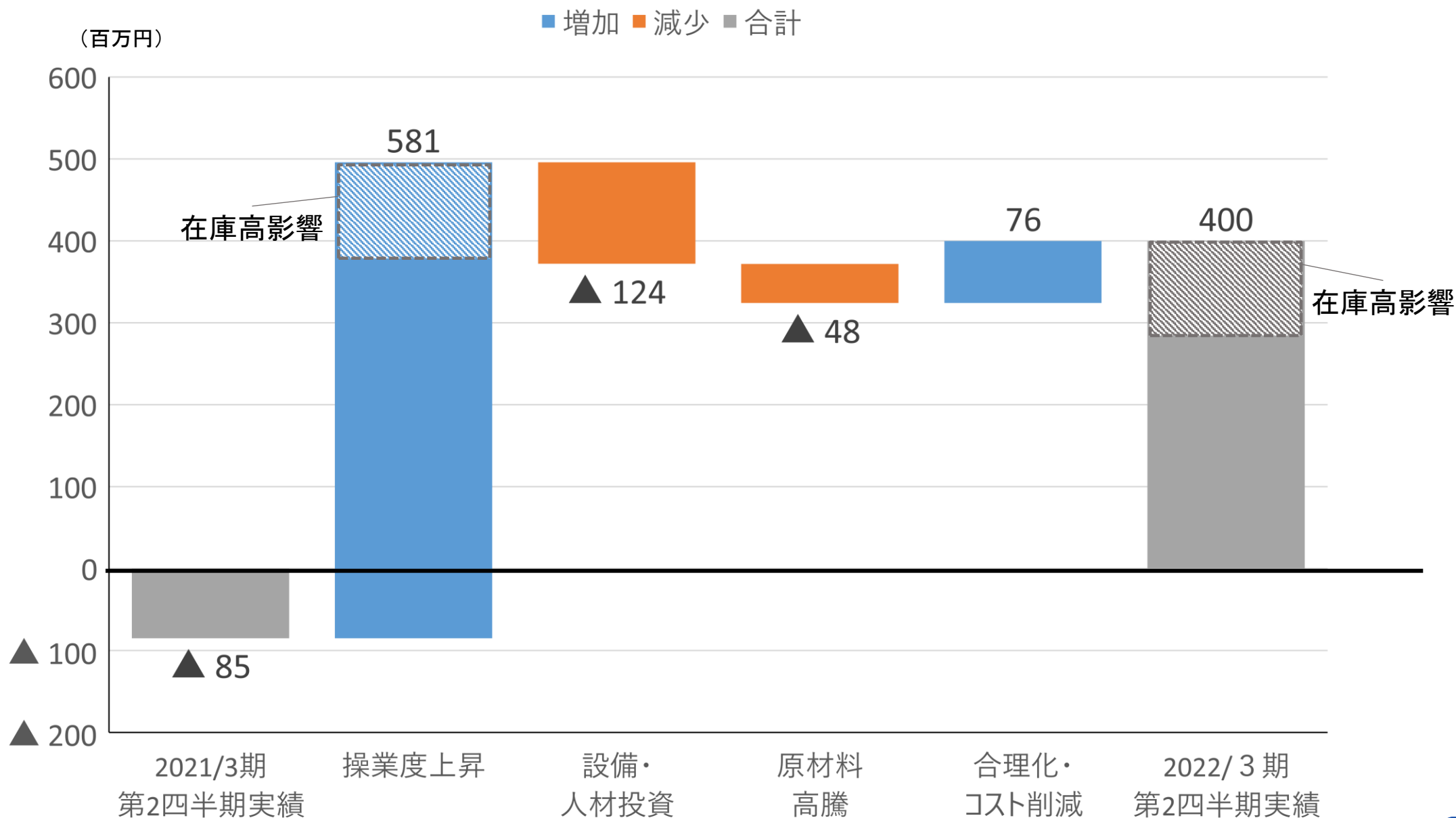
* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期の数値及び前年同期比、増減率は旧会計基準による値で算定しております。

➤ 第2四半期は車両生産減の影響等により、第1四半期比▲10%



* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期の数値は旧会計基準で表示しております。

第2四半期累計 営業利益増減



- 下期の受注増への備えとBCP対応で在庫を積み増し、棚卸資産、流動負債が増加
- 新会計基準の適用により、有形固定資産から流動資産への振替等が発生

◇資産の部

	21年3月	21年9月	増減
流動資産	6,642	7,554	+911
現金預金	1,703	1,664	▲39
売上債権	2,452	2,725	+273
棚卸資産	2,390	2,956	+565
その他	95	208	+112
固定資産	3,475	3,156	▲318
有形固定資産	2,990	2,663	▲327
無形固定資産	136	139	+3
投資その他	347	352	+5
資産合計	10,117	10,710	+593

◇負債・純資産の部

(単位:百万円)

	21年3月	21年9月	増減
流動負債	3,703	4,203	+499
仕入債務	1,288	1,500	+212
有利子負債	1,698	1,853	+155
その他	716	849	+132
固定負債	3,697	3,578	▲118
有利子負債	3,007	2,879	▲128
その他	689	699	+9
負債合計	7,400	7,782	+381
純資産合計	2,716	2,928	+211
株主資本	2,282	2,515	+233
その他	434	412	▲22
負債・純資産合計	10,117	10,710	+593

1. 2022年3月期 第2四半期業績
- 2. 2022年3月期 通期業績予想**
3. 中期事業計画進捗

- 売上は中期計画2年目目標を前倒しで達成
- 投資遅れや各種コストアップにより利益は上期に偏重
- 下期予想は上期比増収、減益の見通し

【下期予想】

① 売上高

- 車両販売、空調市場の好況が継続
- 電動化領域は投資案件の刈り取りが進み、増収に寄与

② 収益

- 原油高や需要増による原材料の高騰、物流コストが上昇
- 投資コスト負担と積み増した在庫の消化により操業度が低下

22年3月期業績予想(修正)

単位:百万円

	21年3月期		22年3月期予想					
	実績	売上高比	期初 予想	売上高比	修正	売上高比	前期比	前回 予想比
売上高 (新会計基準)			11,170	100.0%	11,850	100.0%		+6.1%
売上高 (旧会計基準)	10,752	100.0%	12,100		13,000		+20.9%	+7.4%
営業利益	314	2.9%	345	3.1%	550	4.6%	+74.7%	+59.4%
経常利益	289	2.7%	310	2.8%	500	4.2%	+72.6%	+61.3%
当期純利益	224	2.1%	235	2.1%	330	2.8%	+47.0%	+40.4%

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期の業績予想は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。

* 上記の業績予想には、現時点での入手可能な情報に基づく将来の予測が含まれております。

22年3月期業績予想(上期・下期別)

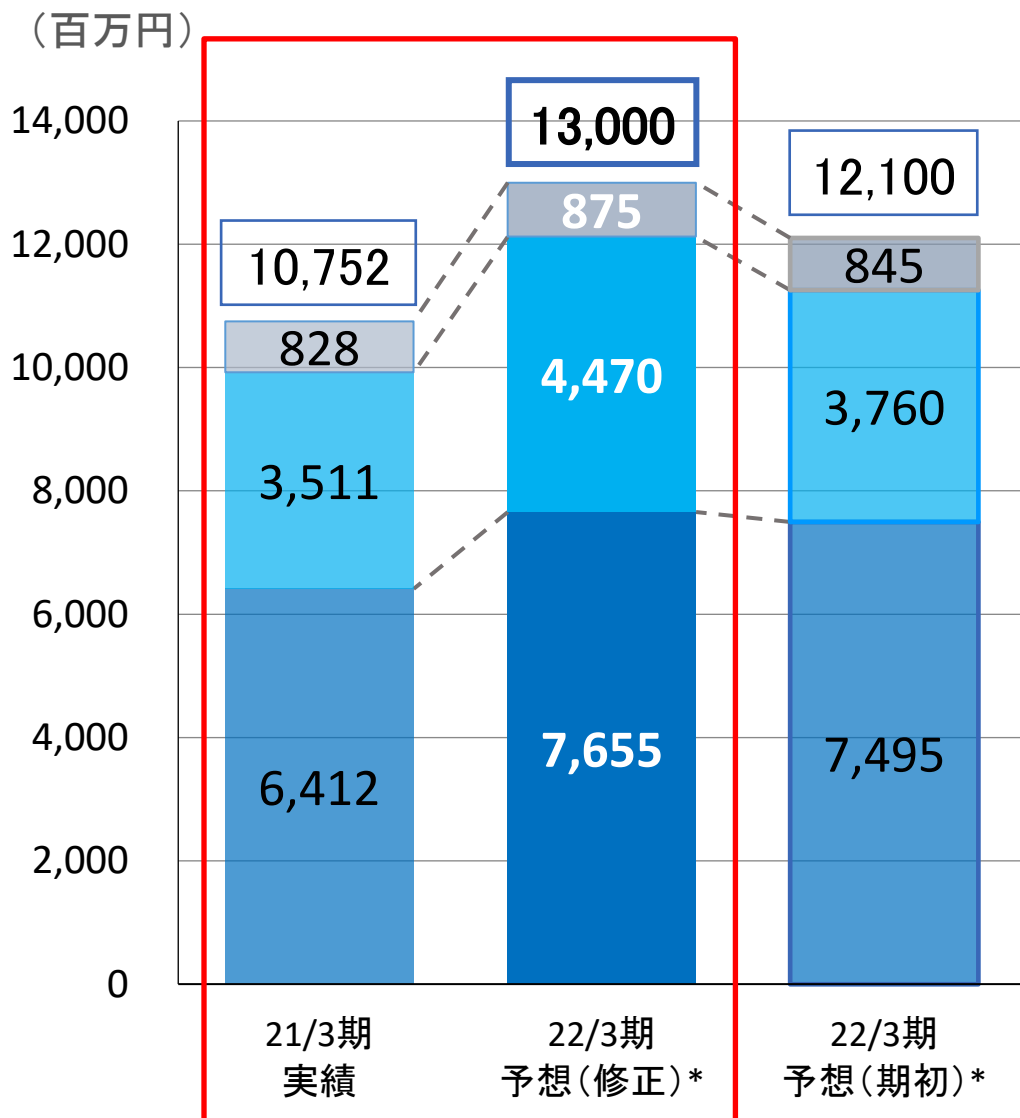
単位:百万円

	22年3月期予想					
	上期実績	売上高比	下期予想	売上高比	通期予想	売上高比
売上高 (新会計基準)	5,885	100.0%	5,965	100.0%	11,850	100.0%
売上高 (旧会計基準)	6,443		6,557		13,000	
営業利益	400	6.8%	150	2.5%	550	4.6%
経常利益	355	6.0%	145	2.4%	500	4.2%
当期純利益	247	4.2%	83	1.4%	330	2.8%

- * 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しており、2022年3月期の業績予想は有償支給取引に係る売上高の純額表示等を適用した後の金額で公表しております。
- * 上記の業績予想には、現時点での入手可能な情報に基づく将来の予測が含まれております。

22年3月期通期売上高予想

■ 自動車 ■ 空調カスタム ■ エlement



事業	前期比 (百万円)	増減率*	増減コメント
全体	+ 2,248	+ 20.9%	<ul style="list-style-type: none"> ● 好調な市況と注力分野拡販が奏功し、23/3期目標に到達 ● 全事業とも期初予想を超過
自動車	+ 1,243	+ 19.4%	<ul style="list-style-type: none"> ● 2Qの減産分は下期挽回 ● 車両販売の増加と電動化領域の伸長
空調カスタム	+ 959	+ 27.3%	<ul style="list-style-type: none"> ● 空調市場の好況継続と主要顧客との取引拡大 ● CO2削減の実現に向け、欧州向けヒートポンプ需要が増大
Element	+ 47	+ 5.7%	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存品は各産業の回復による需要増 ● 光通信用は一部市場では在庫調整が続くも、市場、販路拡大で復調の兆し

* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期の数値及び前期比、増減率は旧会計基準による値で算定しております。

1. 2022年3月期 第2四半期業績
2. 2022年3月期 通期業績予想
- 3. 中期事業計画進捗**

■ 経営目標 : 2023年度(2024/3月期)

売上高 140億円(旧会計基準による)

営業利益率 8.0%

■ 事業戦略

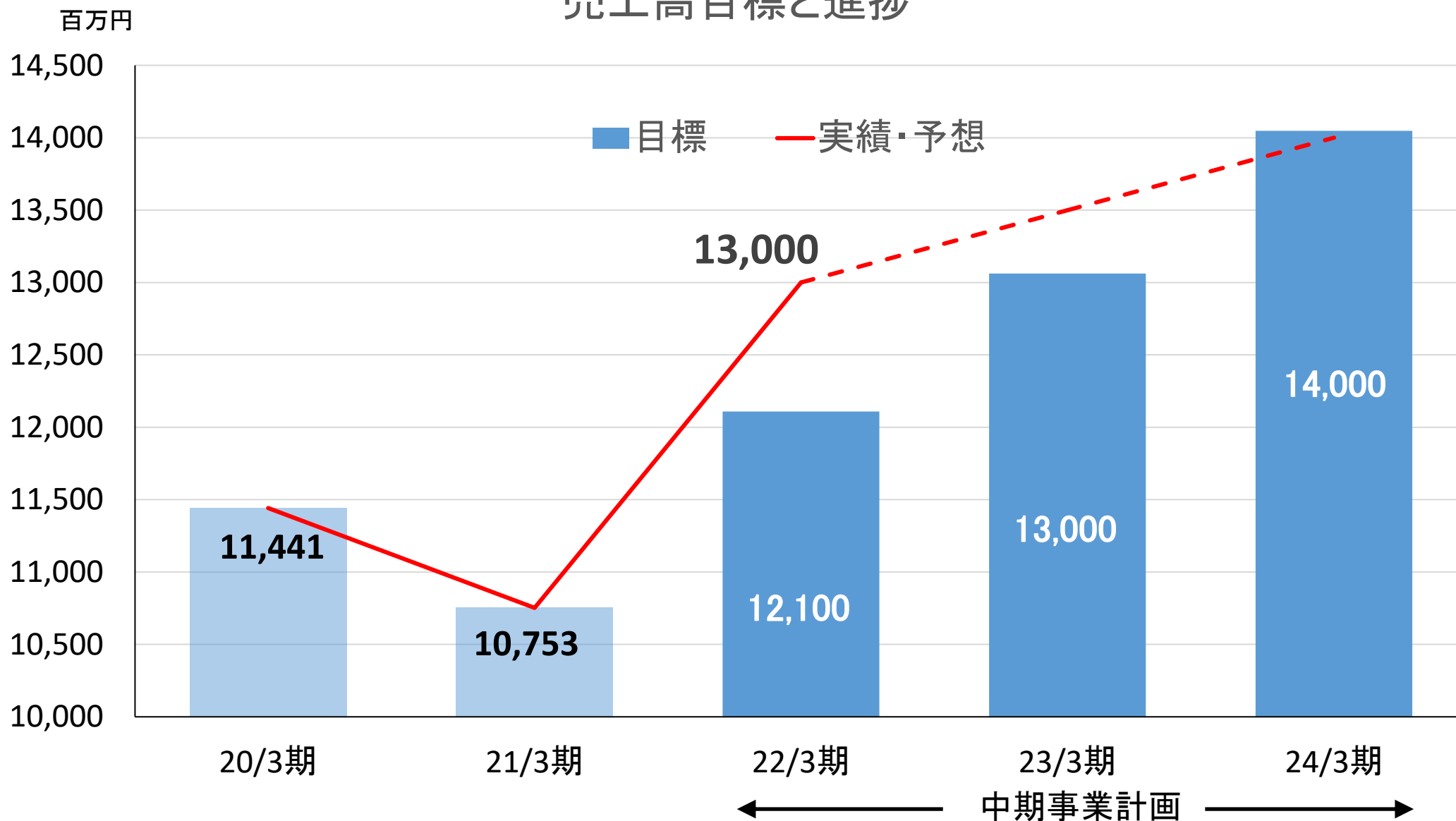
【成長・拡大:注力分野拡販】

- 自動車部品: 電動車領域の強化
- 空調・カスタム部品: 主要顧客との取引深耕
- エlement部品: 光通信ビジネスに注力

【企業体質強化】

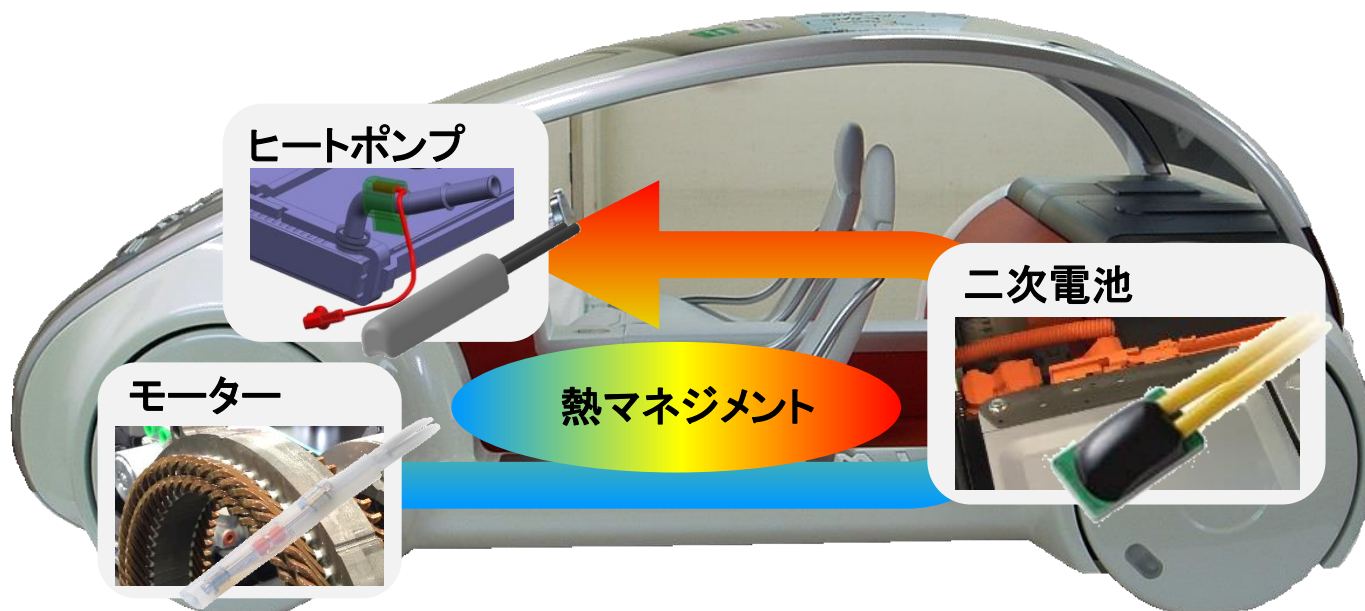
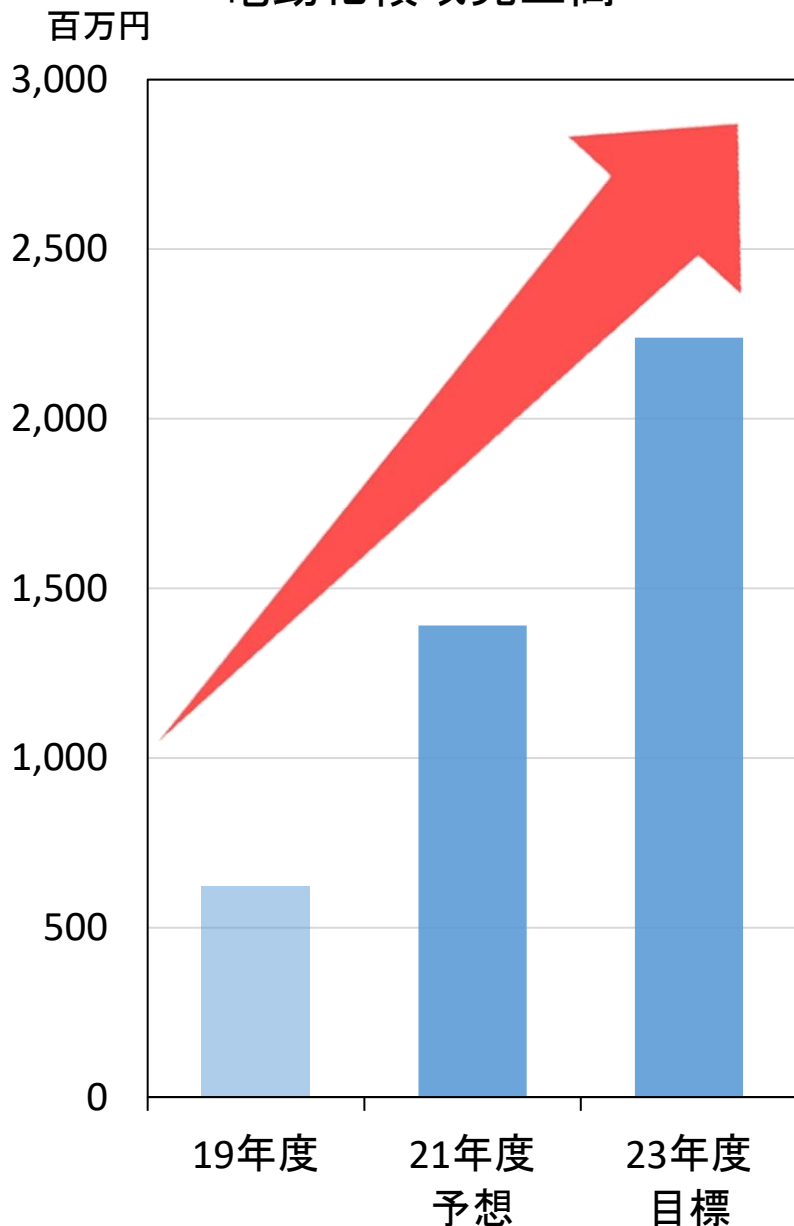
- 合理化、自動化、デジタル化による生産性向上
- 組織、人材力強化

売上高目標と進捗



* 2022年3月期より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、過年度実績との比較のため、2022年3月期以降の数値は旧会計基準による値で記載しております。

電動化領域売上高



モーター : 欧州Tier1向け新規受注を獲得

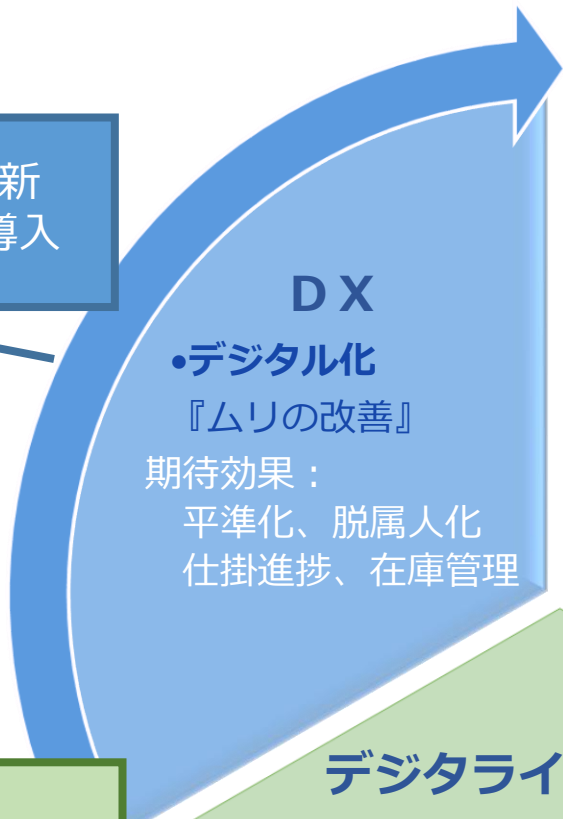
二次電池 : 立ち上げ済み製品の量産本格化

ヒートポンプ : 冷熱システムの多様化による数量増

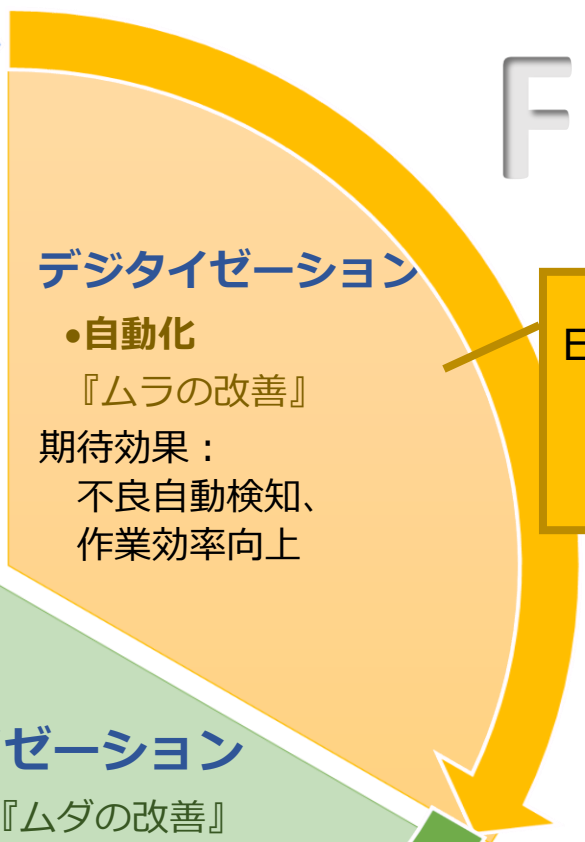
F-IoT

DX

Ex.生産管理システム刷新
工程バーコード管理導入

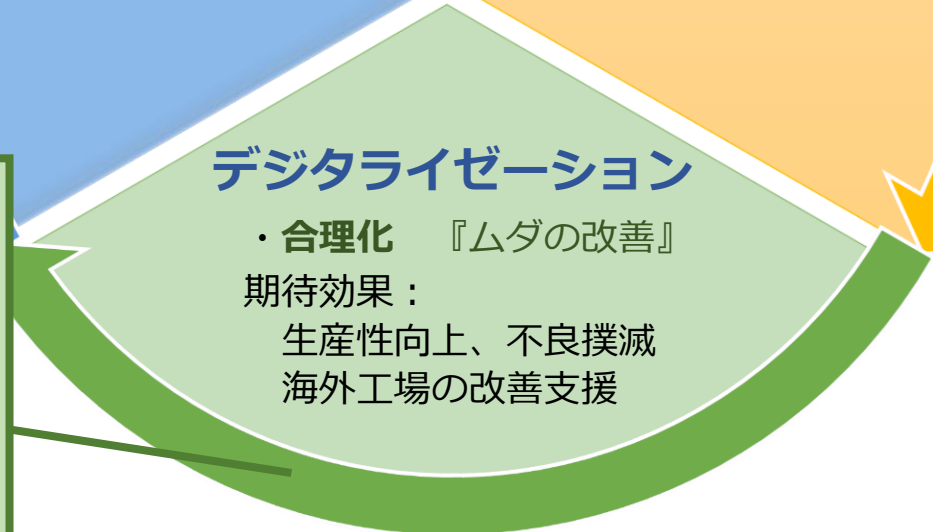


DX
•デジタル化
『ムリの改善』
期待効果：
平準化、脱属人化
仕掛進捗、在庫管理



デジタルイゼーション
•自動化
『ムラの改善』
期待効果：
不良自動検知、
作業効率向上

Ex. 主要顧客と共に
外観検査自動化
= 工数削減を検討



デジタルイゼーション
•合理化 『ムダの改善』
期待効果：
生産性向上、不良撲滅
海外工場の改善支援

EX.AI技術による作業解析
OLLO BOX※活用による取り組み

AI・ビッグデータ

※OLLO BOX: 株式会社OllO(東京大学発ベンチャー、本社:東京都文京区、CEO:川合健斗)のエッジAI技術を活用した作業分析機器

注意事項

この資料に掲載されている、株式会社大泉製作所の現在の計画、見通し、戦略などのうち、歴史的
事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。これらは、現在入手可能な情報から得ら
れた株式会社大泉製作所の経営者の判断に基づいており、内容の正確さについては細心の注意を
払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた障害等に関しまして、当社は一切責任を負
うものではありませんのでご了承ください。投資に関する決定は利用者ご自身のご判断において行
われるようお願いいたします。

センサで世界を測る、未来を拓く。

OHIZUMI

IR お問い合わせはホームページからお願いします。

<http://www.ohizumi-mfg.jp/contact/>